

特選

2009

全国公民科・社会科
教育研究会会長賞

「金融と経済の明日」第7回高校生小論文コンクール

地元への愛で地域おこし

大分県・大分東明高等学校 2年 河野 紗織

私が住む大分県豊後高田市は、山や川に恵まれた自然豊かな場所で、お年寄りが多く、子どもの数はとても少ない。そんな豊後高田市で、数年前から地域おこしのような活動が盛んに行われるようになった。

私が小学生のころ、市内のある商店街から突然現代風の看板やポスターなどがすべて取り除かれた。代わりに、ひと昔前のデザインのものがとりつけられ、店の内装も昭和風のものに変わってしまった。そして商店街の入り口には「昭和の町へようこそ」と大きく描かれた看板がとりつけられた。あまりに突然のできごとだったので、当時何も知らなかった私は本当に驚いた。それは、豊後高田市が外からの観光客を呼び込むために行った地域おこしだったのである。市内に住む人たちはみな、そんなことをしてもこんな田舎に観光客が来ることなんてあるはずがないと言っていたし、実際に地域おこしに取り組んでいた人たちも、本当に成功するかどうかわからなくて不安だっただろう。しかし、地元を愛する心と、もう一度活気を取りもどしたいという熱意が多くの人々の心を動かし、成功するかもわからない「昭和の町」が生まれはじめた。県内だけにとどまらず、昔ながらの品があると聞けば県外にも協力を求めたりするなどして努力する姿勢が地元の人たちにも理解されるようになり、寂しく閉まっていた商店街のシャッターが開きだした。すると予想に反して、外からやって来る観光客からはよい反応を得ることができ、しだいにマスコミも興味を示すようになった。地元のテレビ局だけでなく県外からも注目を浴びた「昭和の町」は全国に知られるようになったのだ。

もともと観光都市ではなかった豊後高田市は、その後リピーターを呼ぶために「蕎麦づくり」という新しい特産品づくりをはじめた。それは、地元で蕎麦を生産して、蕎麦職人を育成し、特産品として売り出そうという、とても大変な取り組みだった。しかし、豊後高田市を一時的なニセモノの観光都市にしたいくないという多くの地元の人たちの強い思いにより実現したのである。

今では豊後高田市は、休日になれば駐車場には大型の観光バスが停まるようになり、道いっばいに歩く人の姿や、ベンチに座ってなつかしのアイスキャンデーを食べる人の姿があちこちで見られるようになった。昔ながらのおもちゃや駄菓子を売る店が新しくできたり、昭和の一般的な家のようななどを再現した展示場なども設けられ、豊後高田市は、日に日に明るく元気な町になっていっている。

「昭和の町」や「蕎麦づくり」のおかげで活気づいた豊後高田市は、テレビや新聞などによっ

て全国に知られた。その中には、以前の豊後高田市のように元気をなくしてさびれている町の人もいて、自分たちの町も元気を取りもどしたいと、実際に視察に来る人も大勢いる。私が住む豊後高田市が全国的に有名になった上に、たくさんの人や町の希望の光になったのだと思うと、なんだかすごく嬉しいし、自分の町を誇りに思う。

今回の豊後高田市の地域おこしの取り組みが成功に向かっている要因は、私はおもに二つあると思う。

一つ目は、地域おこしのテーマを「昭和」に注目した点である。もともと市内にあった商店街を活用することもできるし、それによって地元に住んでいる人も地域おこしに参加することができる。誰にだって昔を懐かしいと思う気持ちは心のどこかに存在しているだろうし、そういう点では無理して新しいものを作ろうとしないところが、背伸びをしていなくて豊後高田市に似合っているテーマだと思う。

二つ目は、地域おこしに取り組んだ人たちの姿勢である。ほぼすべての店のシャッターが閉まり、滅多に人も通らない商店街を、もう一度、にぎやかで活気のある通りにしようと思った地元を愛する気持ちや、そんな目標に向かって努力する姿勢、だめになりそうになっても決して諦めない心など、どれ一つが欠けていてもここまで大きな活動にはならなかったと思う。

私は小学生のころ、大阪から今の豊後高田市に引っ越してきた。最初の印象は、遊べるような大きい公園や、便利な店はないし、学校も一クラスに10人もいないほど小さくて、とにかく「物足りない」と感じていた。大阪にいたときの友だちに新しい住所を教えても「豊後高田市ってどこ」「これってどうやって読むの」と言われるほど知名度が低かった。しかし今では「知ってるよ。昭和の町があるところでしょ」「私行ったことあるよ」と言われるまでになった。さびれていた町がここまで生まれ変わって、いろんな人に知られるようになったのは本当にすごいことだと思う。将来私はどんな町に住むかわからないけど、もしも以前の豊後高田市のように活気を失った町に出会ったら、昭和の町を思い出して、地域おこしに取り組んでみたいと思う。

